



女性目線で行う防災啓発活動 ～楽しくつながる防災～



岐阜県高山市 TMBJ 高山まち協防災士女子会
代表 山本 真紀

1 TMBJ 高山まち協 防災士女子会結成

平成の大合併で日本一広い市となった高山市には、20のまちづくり協議会があります。日頃から協議会ごとに地域の特色を生かしたまちづくりや、地域課題を解決する活動を行っていますが、どの地域においても地域防災には力を入れて取り組んでいます。近年、高山市でも大雨による土砂災害の危険性が高まり、避難所を開設した事例も複数あります。いつ起きるかわからない災害への備えは、喫緊の課題となっています。

一方で、自主防災リーダー組織の構成員や防災研修の参加者は、50代から70代の男性が多く、子どもや女性へのアプローチが届きにくいという現状がありました。そのような中、令和3年10月に市内の小中学校から防災教室開催の依頼をいただいたことをきっかけに、5地区のまちづくり協議会の女性事務局員で、防災士資格を有する5名が集まり、「TMBJ 高山まち協防災士女子会」を結成することとなりました。

2 女性目線の防災啓発活動 ～楽しくつながる～

結成後は、市内の保育園や小中学校、放課後児童クラブなどから、子どもを対象とした防災教室の開催依頼を受けるようになりました。年齢に応じたオリジナル教材（紙芝居、クイズシート、シールワーク等）を作成し、メンバーそれぞれの得意分野を生かした、楽しいプログラムによる防災啓

発活動を行っています。

また、高山市の総合防災訓練では、女性目線の避難所運営に関するプレゼンテーションを実施しました。そのほか、避難所における男女共同参画をテーマとした講演会の企画運営や、町内会の女性部、各種女性団体を対象としたワークショップなどにも取り組んでいます。

令和4年度に実施したオンライン防災意識調査の結果をもとに、商業施設のオープンスペースを活用した防災イベントを開催しました。このイベントでは、調査結果からペット同行避難に関する情報ニーズが高いことが明らかになったため、地域の動物保護団体と協力した展示を行いました。

さらに、地域企業と連携し、市営住宅の居住者を対象に、初歩的な防災知識を楽しく身につける防災教室も実施しています。

3 取り組みの成果

女性目線を取り入れた防災啓発活動を行い、女性自身が講師を務めることで、防災研修への女性参加者が少しずつ増えてきました。託児を取り入れた商業施設での防災イベントには、親子連れの参加も多く、防災情報が幅広い年代や性別の方々に届き始めていると実感しています。

また、ICTを活用したアンケートやアプリの導入により、住民が主体的に防災に関わる機会も増えてきました。岐阜大学社会システム経営学環地域ラボや、高山市市民活動団体などと協働した啓発活動、行政・

福祉関係者・地域・学校を巻き込んだ「地域防災力を高める」懇談会の開催により、多様な主体による緩やかなネットワークが構築されつつあり、災害時の福祉ネットワークづくりにも一歩近づいています。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の際には、子どもたちが命を守る行動をしっかりと取れていたという報告が多方面から寄せられ、防災教育の成果が少しずつ表れていると考えています。

4 おわりに

メンバーはまちづくり協議会の事務局職員であり、それぞれが地域の多様なステークホルダーとのつながりを持っています。「TMBJ 高山まち協防災士女子会」として活動することで、より多くの団体や人を巻き込み、連携の輪を広げることができています。

今後は、高山市のSDGsイベントや消防フェスティバルへのブース出展など、防災にあまり関心のない方々へのアプローチも継続していきます。また、依頼を待つだけでなく、PDCAを意識した防災啓発イベントを主催事業として企画・実施していく予定です。

今後も女性目線を生かした効果的な防災啓発活動を進めながら、活動するメンバー自身も楽しみ、地域全体の防災力向上を目指していきたいと考えています。



乳幼児親子教室



大型防災紙芝居



防災緑日



飛騨高山SDGsウィーク ブースの様子



持ち物ワークショップ